

公開講座「総合二〇一七」 「じぶん打破―事実を透かして見てみたら？」

「建築をデザインしない。生かす、

をデザイン」

第二十六回 二月十八日

建築史家・大阪市立大学准教授

倉方 俊輔 先生



◎Shinobu Shimomura

プロフィール

一九七一年東京生まれ。建築史家。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了、同大学院博士課程満期退学。二〇一一年より大阪市立大学大学院工学研究科准教授。伊東忠太の研究で博士号を取得後、著書に『東京モダン建築さんぽ』『吉祥寺ハモニカ横丁のつくり方』『吉阪隆正とル・コルビュジエ』、共著に『これからの建築士』『大阪建築みる・あるく・かたる』『伊東忠太建築資料集』ほか。建築史の研究や批評に加え、日本最大の建築公開イベント「イケフェス大阪」の実行委員を務めるなど、建築と社会を近づけるべく活動している。「イケフェス大阪」を含む一連の取り組みによって二〇一七年、日本建築学会賞（業績）を共同受賞。

スタッフより

津田塾大学の建物のいくつかは日本を代表する建築家たちが設計したものです。本館ハーツホン・ホールは佐藤功一氏が、星野あい記念図書館は丹下健三氏が設計を手がけました。こうした大学の建造物を始め、建物は私たちの毎日の生活を支えてくれるものです。建物の背景を知れば、私たちは暮らしをより素晴らしく感じられるのではないのでしょうか。今回の講演では、歴史を通して建築を知り、建築と私たちの生き生きとした暮らしとの関係を学びたいと思います。